

## 平成28年度第2回鹿沼市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年2月2日(木) 午後3時00分～午後4時20分

2 場 所 鹿沼市役所常任委員会室

### 3 出席した委員

鹿沼市長	佐藤	信	教育委員長	鈴木	泉
教育委員長職務代行者	佐川	徹三	教育委員	中西	泉美
教育委員	齋藤	正	教育委員(教長)	高橋	臣一

### 4 出席した事務局職員

総務課長	糸井	朗	教育次長	田野井	武
企画課長	袖山	稔久	教育総務課長	金子	信之
総務課	川田	孝郎	教育総務課	斎藤	史生
			教育総務課	仁平	利恵

### 5 傍聴者

なし

### 6 決定した事項

市長が提案した「鹿沼市教育大綱(案)」について、一部を修正した上で(※)、平成29年度からの新たな教育大綱とすること。

(※)「鹿沼市教育大綱(案)」の3ページ中「(参考)」を削除する。

### 7 会議の概要

(1) 開 会 (進行: 糸井総務課長)

(2) 挨拶

#### ア 市長挨拶

本日は、お忙しいところ、今年度2回目の鹿沼市総合教育会議に出席をいただき、ありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃より、本市教育行政の推進に御協力をいただき、感謝を申し上げます。

本日2月2日は、「じいじ(爺)の日」だそうです。「父の日」や「母の日」とともに、このような日を定着させていくことが子どもの教育にとってもよいのではないかと思います。

市においては、予算編成、組織、人事など、新年度に向けた作業を進めているところであり、今月末には、重要な議案を審議していただく3月議会の開会を控えております。また、第7次鹿沼市総合計画の内容も概ね確定したことを踏まえ、本日は、新たな教育大綱について、議論をしていただくこととなります。

昨日のニュースでは、中学受験に臨む小学生の様子が報じられていましたが、多くは公立の中学校での教育を通じ、成長していくのであらうと思えます。子どもたちを取り巻く環境も常に変化する中で、教育行政に求められている課題も山積していることと思えますが、本日は、忌憚のない御意見をいただきたいと思います。

#### イ 教育委員長挨拶

今年度は、小中学校の適正配置に関する基本計画の策定、中学校へのエアコン導入をはじめ、「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録や、テニスコートの全面改修など、市民に寄与する事業に取り組むとともに、本日協議する教育大綱と、その実行プランである教育ビジョンの策

定に向けた検討を進めてきました。また、昨年10月からは、県教育委員会から職員の派遣を受け、県の施策についての出前講座を受けるなど、県との連携強化にも努めてまいりました。

近年の教育行政は、地域振興など、市長部局の施策との緊密な連携が重要になってきております。そのような中、この総合教育会議において、市長と直接意見交換ができることをうれしく思っております。

### (3) 協 議

#### ア 新たな教育大綱の策定について

佐藤市長から、「鹿沼市教育大綱（案）」を平成29年度からの新たな教育大綱とすることについて、提案があった。

##### <市長の提案の内容>

前回の会議では、大綱に定める基本理念について、様々な意見をいただきました。本市が目指す「笑顔あふれる人情味のあるまち」を実現するために最も基本となるのは、「ひとづくり」であると考えます。本市の未来を担う子どもたちをはじめ、全ての市民の皆様が生きがいを持って豊かな人生を送れるよう、よりよい「学び」の環境を整えていくことが市の使命であるとの観点から、「学びから未来を拓くひとづくり」を基本理念として掲げることとしました。

この基本理念に基づく基本目標及びその実現に向けた施策をまとめた「鹿沼市教育大綱（案）」を、来年度からの新たな教育大綱としたいと考えております。

この大綱のもとで、教育、福祉・保健、子育て、地域振興などの各分野との連携により、「生きる力」を育み、質の高い「学び」を提供するなど、本市の教育の一層の充実を図り、生涯にわたって活躍することができる「ひとづくり」に向けた施策を進めていきたいと考えておりますので、委員の皆様のお意見を申し上げます。

「鹿沼市教育大綱（案）」の内容を、事務局が説明した。

##### <「鹿沼市教育大綱（案）」に対する教育委員会の意見>

鈴木委員長 この内容で良いと思う。特に「学びから未来を拓くひとづくり」は、基本理念として大変良いと思う。

佐川職務代行者 大綱（案）の3ページに、5つの「基本目標」が掲げられているが、その下に教育ビジョンの「教育目標」が記載されている。「目標」が2つあるのは、わかりにくいのではないか。

##### <事務局の説明>

当初は、教育ビジョンの教育目標を大綱の基本目標に位置付けたが、第7次総合計画及び新しい教育ビジョンとの整合を図るため、大綱には、教育目標とは別の基本目標を掲げた。同ページの教育目標は、あくまで参考としての記載なので、誤解を招くようであれば削除する。

市長から提案のあった「鹿沼市教育大綱（案）」を平成29年度からの新たな教育大綱とすることについては、3ページ中の「(参考)」を削ることとした上で、教育委員会が承認し、決定した。

(4) その他

ア 教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定について

事務局から、教育委員会において策定を進めている教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定について説明した。

＜「教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定」に対する意見＞

齋藤委員 65ページの「学校給食の充実」に向けた施策では、施設の管理に関するものが目立つ。子どもたちにとって安全安心な給食の提供や、食育も含め、給食自体の充実を図る施策を盛り込んでいただきたい。

＜事務局の説明＞

食育については、54ページの「学校における食育の推進」において、地産地消や栄養教諭等による指導を掲げている。

齋藤委員 こちらも是非、重点的に取り組んでいただきたい。

市長 今後、施設の民間委託が進んでいくが、そのことが子どもたちにとっての負担になってはならないと考えているので、十分配慮して進めていきたい。

佐川職務代行者 77ページの「ユネスコ無形文化遺産の継承」について。「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、教育委員会として取り組まなければならない課題は、「人材の育成」であると思う。氏子だけの祭りではなく、鹿沼市の祭りとして、次代を担う人材を育成するためには、祭りに関する教育を継続して行っていくことが必要である。

高橋教育長 今年度は、情報センターで小学生を対象に実施した。次年度も引き続き継続していきたい。今回新たに盛り込んだ77ページの「郷土愛を育む授業支援の推進」は、「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」も含め、子どもたちの郷土愛を育むという要請に応えるもの。学区内に限らず、郷土としての鹿沼市という認識を子どもたちに広く持ってもらえるようにしたい。

中西委員 「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」を通年で感じられる施設があまりない。鹿沼の文化を日常的に感じられる施設として川上澄生美術館や木のふるさと伝統工芸館があるが、それぞれのつながりが薄いように感じる。「木工のまち」も、それを掲げるわりにはまちの中に木工を感じられるものがない。ユネスコ登録をきっかけに、もっと子どもたちが鹿沼の文化を感じられるようなまちづくりをしていただきたいと感じる。

＜事務局の説明＞

屋台活用基本計画を策定してから30年が経ち、これまで各地に屋台会館ができたが、それぞれの町内が所有するものなので、町内を離れて遠くに持って行くことはできない。そこで、中間に木のベンチを置くなど、それらをつなぐための工夫はしているものの、十分とはいえない。

佐川職務代行者 30年前に屋台活用基本計画ができてから、屋台の活用を条件に屋台収納庫の補助制度ができた。屋台収納庫には必ずのぞき窓を作るようになっていたが、人が常駐するのは難しく、リング

シャッターであれば中が見えるが、放火が心配という声もあった。ユネスコ登録を機に、土日だけでも屋台収納庫を開けてもらえるよう市からお願いしてはどうか。それでマップを作って、年間を通じて訪れた人が屋台を見て回れるといい。

#### ＜事務局の説明＞

当時は、各町内に屋台収納庫をつくって、それでまちを歩いてもらい、その間にある商店がムードづくりをすることで活性化を目指していたが、中心部は、商店が減ってきてしまっているのが現状である。

鈴木委員長 上都賀地域は、県内でも学力が良くない地域なので、確かな学力の育成が最重要課題の一つである。鹿沼市では、中学校は良かったが、小学校は良くない。なぜ良くないのかについて、様々な意見がある中で、スポーツ少年団の活動が盛んな一方で、勉強時間が少ないという分析もあった。上都賀地域は、学力が良くない地域であるということをして市全体で認識し、最重要課題の一つとして取り組んでいく必要がある。

市 長 土曜日も日曜日もスポーツ少年団の活動ばかりということでは、少し行き過ぎのような気がする。

鈴木委員長 スポーツ少年団が盛んなのはいいことだが、土日・祝日とエスカレートしてしまえば、学力の向上に最も重要といわれる家庭学習の時間に影響してしまう。こういった問題を認識して、これからのことを考えなければいけない。

齋藤委員 市の総合計画に関連して。結婚しない若者がとても多い。結婚して子どもを設けることが社会的責任であるとまでは、なかなか謳いにくいところだが、結婚をしてもらわないと社会的に非常に厳しい状況。市長の権限の部分なので、総合教育会議でお伺いした。もう一つは、23ページのスクールバスのことについて。旧栗野町でも、栗野中学校のスクールバスが走っており、これは学校統合のときの約束の一つ。しかしながら、現状は、2、3人に対してバスを1台出しているようなところもあり、また、リーバスに対しても市は多くの財政負担をしているにもかかわらず、乗っている人数は少ない。非常に非効率的である。10年目を過ぎ、そろそろメスを入れてもいいのではないかと。

市 長 総合計画の5か年の基本計画の「人を育む」の中で、結婚・出産・子育てを一番目に掲げている。地域の存亡にかかわる問題。行政がどこまで推進できるかという問題はあるが、行政の大きな役割の一つ考えている。学校で児童が子どもに触れる授業を考えていると聞いたが。

#### ＜事務局の説明＞

核家族化の進行で、子どもを抱きかかえる経験がなくなっていることから、保健福祉部と教育委員会が連携し、生まれたばかりの子供と母親に学校に来てもらい、児童と触れ合ってもらう授業を計画している。

市 長 スクールバスとリーバスは、全く別のところで運行しているが、路線によっては、相互乗入れなどの整理の必要性を感じている。

佐川職務代行者 43ページの第7章は、教育ビジョンの中で最も重要と思いつながら見ていたが、例えば、「アクティブ・ラーニング」という言葉は、教育に携わっている人間であればイメージできるが、一般の方にはわからないと思う。また、「リーディング・プロジェクト」という言葉も、重要課題解決の取組というような意味と理解しているが、これも訳しようがないからそのまま浸透させようとしているのか。そうだとすれば、定着するまでは、括弧書きで説明を入れるなどをしないとわからないのではないかと。

#### <事務局の説明>

「リーディング・プロジェクト」の意味は、43ページ冒頭に記載している「事業全体を進める上で核となり、先導的な役割を果たす取組」である。これに相当する適当な日本語がなく、国でも使用しているため、この言葉をそのまま用いた。バラバラに動きがちな別々の事業を「リーディング・プロジェクト」としてまとめたものである。

佐川職務代行者 そのような説明を注釈として付けた方がいいのではないかと。  
「リーディング・プロジェクト」だけでは、見た人はわからない。  
「アクティブ・ラーニング」や「インクルーシブ教育」など、最近このような言葉が多い。

用語の説明については、事務局において検討することとした。

#### イ 会議全体を通しての意見

鈴木委員長 学力に関する問題について。県では、今年度まで校長OBを4人ほど採用し、県全体の指導に当たった。鹿沼市も学力向上のためにOBの経験を生かす取組をしてはどうか。現場の先生も非常に勉強になると聞く。学力を上げていくためには、指導力の向上が必要で、予算の都合もあるが、検討に値する取組だと思う。

市長 学力を上げるには、学力別にクラスを分けるのがいいが、義務教育では難しい。

鈴木委員長 読解力に欠ける子どもが多く、そこが解決できると、学力の飛躍的な向上につながる。

高橋教育長 鈴木委員長から話があったのは、「学力向上アドバイザー」というもので、県の教育委員会が取り組んでいる事業。元教育事務所長や指導主事、校長で現場を退職した方を中心に、県内各教育事務所に配置され、上都賀教育事務所では2の方が担当された。3年間で上都賀管内の全小中学校を回り、学力向上に向けた取組についてアドバイスをするもの。その事業が今年度末で終わる。

鈴木委員長 県とは別に、鹿沼市独自の取組としてできたらいい。

市長 学力の問題は、こうすればすぐ学力が上がるというものではないので、いろいろ工夫をしながらやっていくしかないのだと思う。現場の方の努力が求められるところを、我々としてどのような手助けができるか。今後も意見交換をしていきたい。